

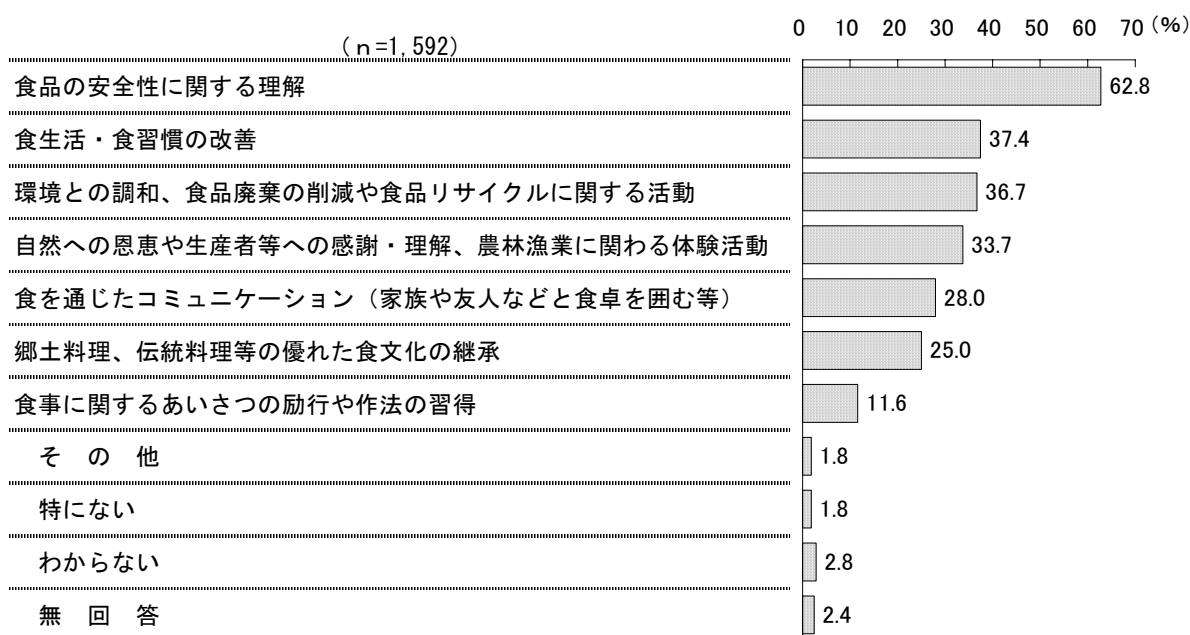
5 食育に関する県民意識について

(1) 食育の県民運動としての取り組みで重要なこと

◇「食品の安全性に関する理解」が6割を超えて最も高い

問 16 食育には、多面的な内容が含まれており、県では県民運動として推進しています。
あなたは、県民運動として取り組む内容として何が重要と思いますか。(〇は3つまで)

<図表5-1>食育の県民運動としての取り組みで重要なこと



食育の県民運動として取り組む内容として重要だと思うことを3つまで選んでもらったところ、「食品の安全性に関する理解」（62.8%）が6割を超えて最も高くなっている。これに「食生活・食習慣の改善」（37.4%）、「環境との調和、食品廃棄の削減や食品リサイクルに関する活動」（36.7%）、「自然への恩恵や生産者等への感謝・理解、農林漁業に関わる体験活動」（33.7%）が続く。

(図表5-1)

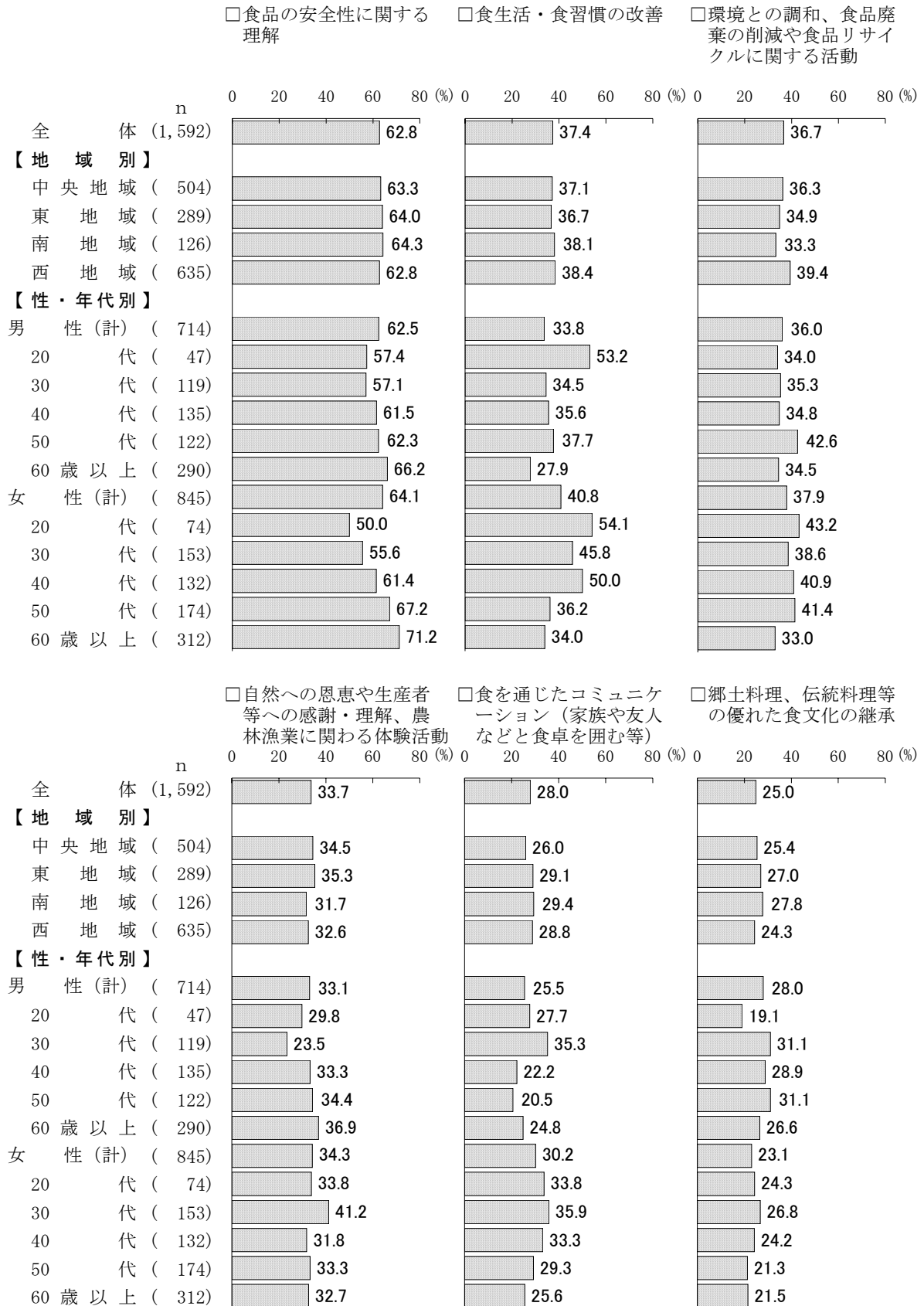
【地域別】

地域による大きな違いはみられない。(図表5-2)

【性・年代別】

性・年代別で見ると、「食品の安全性に対する理解」はおおむね高い年代ほど割合が高くなっている。「食生活・食習慣の改善」は男女の20代（男性53.2%、女性54.1%）と女性40代（50.0%）で5割以上となっている。「自然への恩恵や生産者等への感謝・理解、農林漁業に関わる体験活動」は男性30代（23.5%）が最も低く、女性30代（41.2%）では4割を超えている。「食を通じたコミュニケーション（家族や友人などと食卓を囲む等）」は、男性30代と女性の20代から40代の年代で3割を超えている。(図表5-2)

<図表5-2>食育の県民運動としての取り組みで重要なこと／地域別、性・年代別（上位6項目）



(2) 食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向

◇「参加してみたい」は4割

問17 あなたは、食育の推進に関わるボランティア活動に機会があれば参加したいとお考えですか。(○は1つ)

<図表5-3>食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向

	n	参加してみたい	参加してみたいとは思わない	無回答	(%)
全体	(1,592)	40.1	54.7	5.2	

食育の推進に関わるボランティア活動に、機会があれば参加したいと思うか聞いたところ、「参加してみたい」(40.1%)は4割、「参加してみたいとは思わない」(54.7%)は5割台半ばとなっている。(図表5-3)

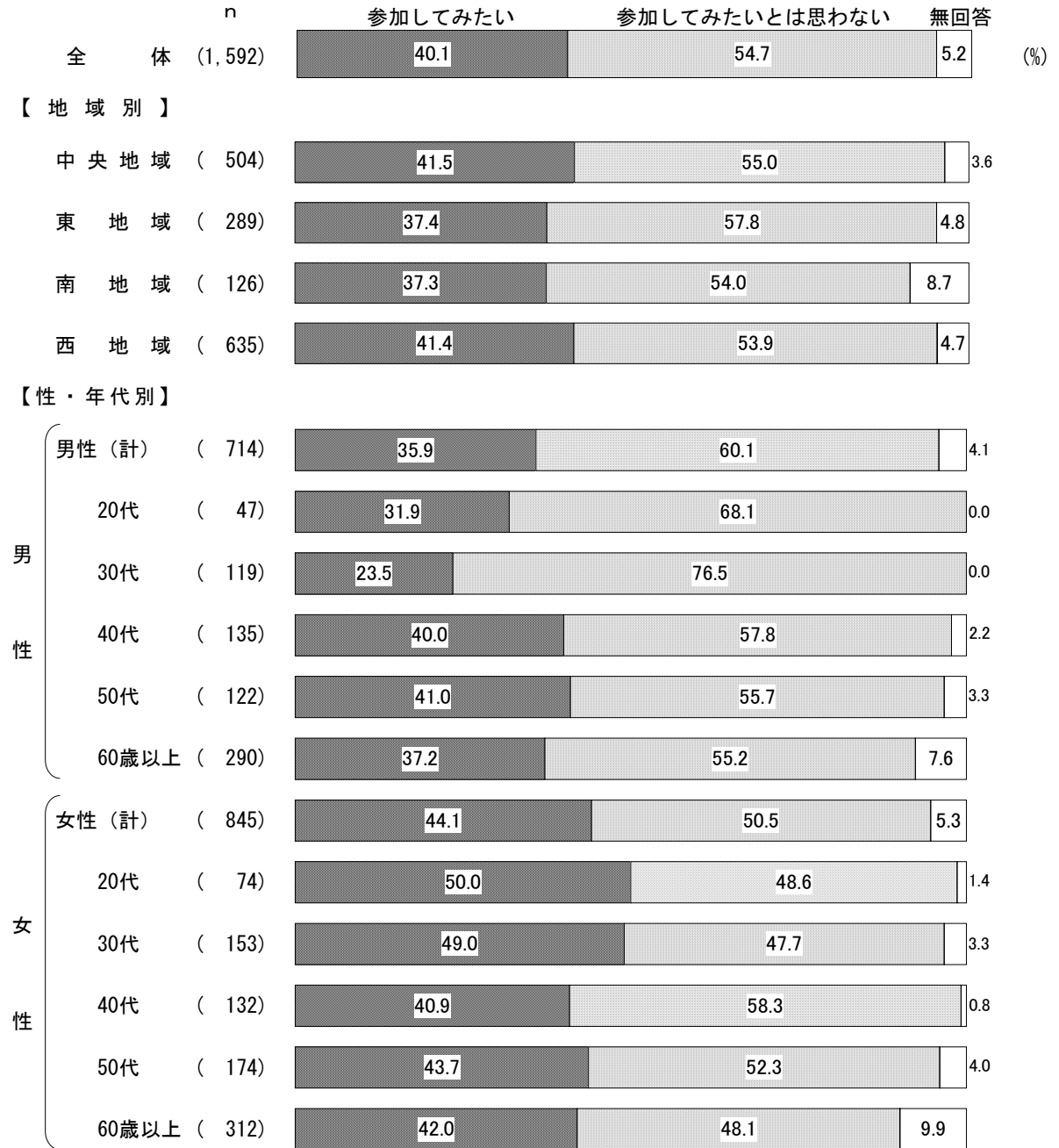
【地域別】

地域による特に大きな違いはみられない。(図表5-4)

【性・年代別】

性・年代別でみると、「参加してみたい」は女性の方が男性より約8ポイント高く、特に女性の20代(50.0%)と30代(49.0%)で5割と高くなっている。「参加してみたいとは思わない」は男性30代(76.5%)で7割台半ば、男性20代(68.1%)で約7割となっている。(図表5-4)

<図表5-4>食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向／地域別、性・年代別



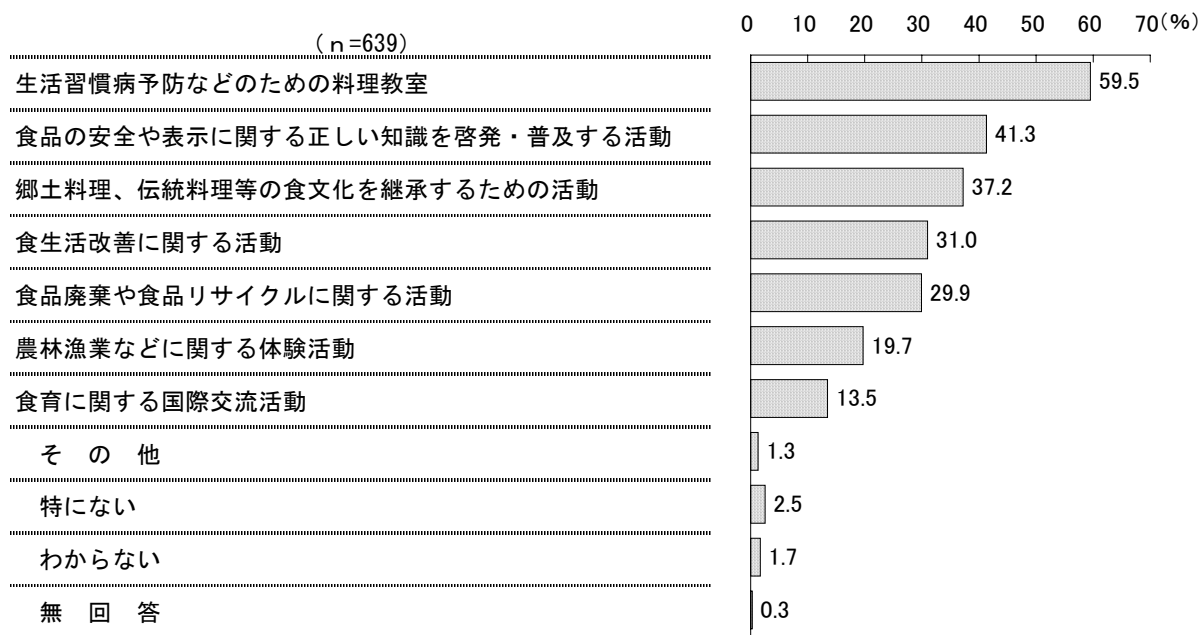
(2-1) 食育の推進に関わるボランティア活動で参加したいこと

◇「生活習慣病予防などのための料理教室」が約6割で最も高い

(問17で「1 参加してみたい」と答えた方に)

問17-1 あなたは、食育の推進に関わるどのようなボランティア活動に参加してみたいと思いますか。(〇は3つまで)

<図表5-5>食育の推進に関わるボランティア活動で参加したいこと



食育の推進に関わるボランティア活動に、機会があれば「参加してみたい」と答えた639人を対象に、どのようなボランティア活動に参加してみたいかを3つまで選んでもらったところ、「生活習慣病予防などのための料理教室」(59.5%)が約6割で最も高くなっている。これに「食品の安全や表示に関する正しい知識を啓発・普及する活動」(41.3%)、「郷土料理、伝統料理等の食文化を継承するための活動」(37.2%)、「食生活改善に関する活動」(31.0%)が続く。

(図表5-5)

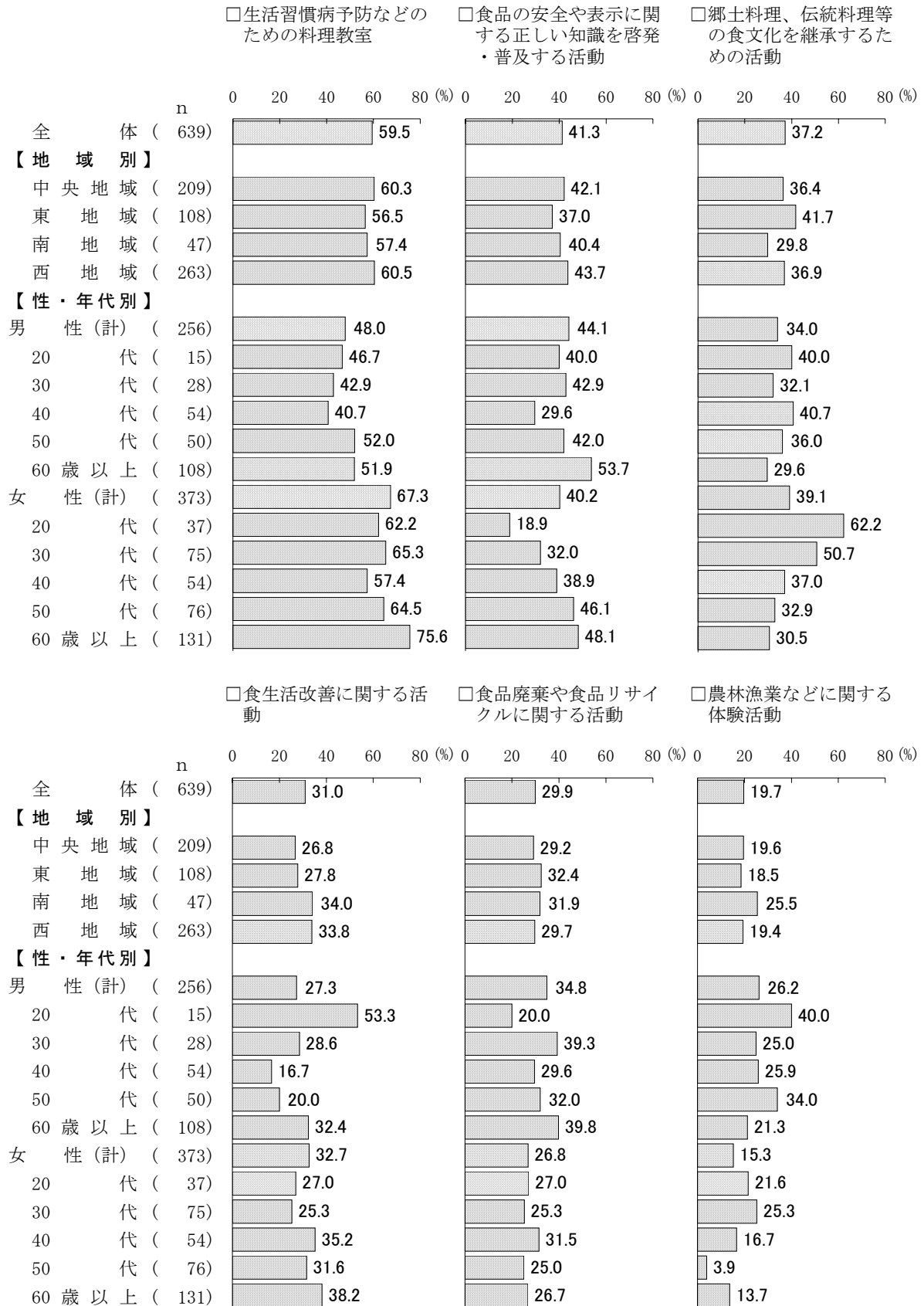
【地域別】

地域による特に大きな違いはみられない。(図表5-6)

【性・年代別】

性・年代別でみると、「生活習慣病予防などのための料理教室」は、女性の方が男性より約19ポイント高く、特に女性60歳以上(75.6%)で7割台半ばと高い。「食品の安全や表示に関する正しい知識を啓発・普及する活動」は男性60歳以上(53.7%)で5割台半ばと高い。「郷土料理、伝統料理等の食文化を継承するための活動」は女性20代(62.2%)で6割を超えて特に高く、女性30代(50.7%)でも5割となっている。「食生活改善に関する活動」は男性20代(53.3%)で5割台半ば、「農林漁業などに関する体験活動」も男性20代(40.0%)で4割となっている。(図表5-6)

<図表5-6>食育の推進に関わるボランティア活動で参加したいこと／地域別、性・年代別
(上位6項目)

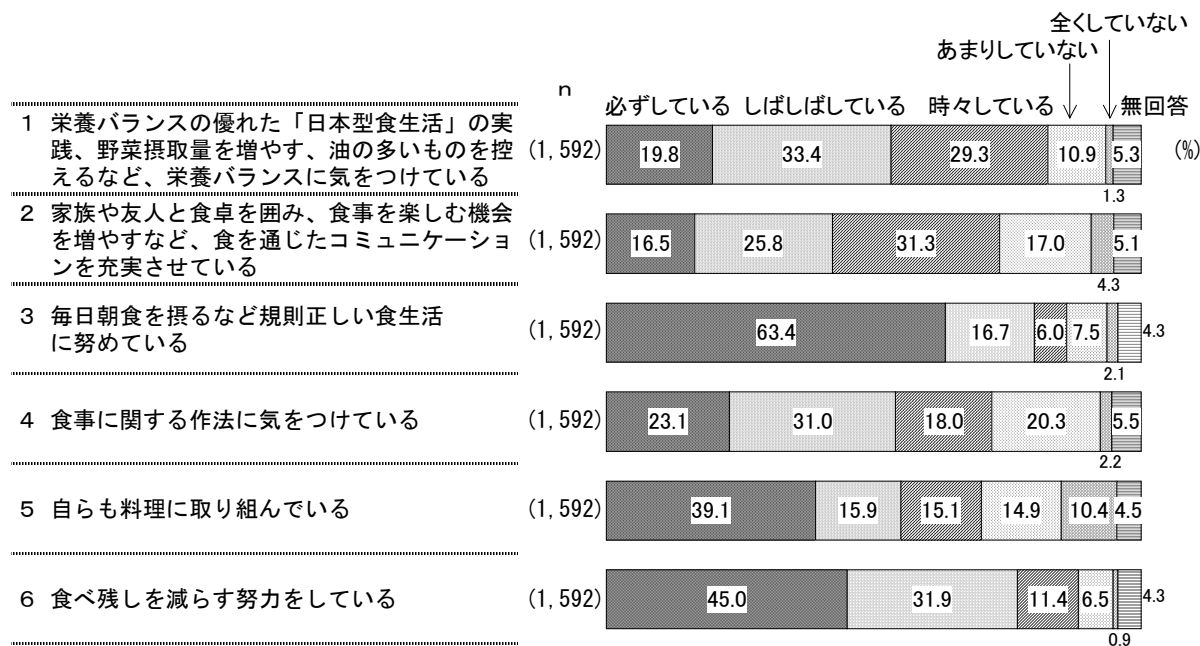


(3) 自身の食生活

◇〈毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めている〉は6割台半ばが「必ずしている」

問 18 家庭（単独世帯を含む）における食育として、自ら実践することが重要です。子ども等への指導は除き、次の1から6のそれぞれについて、あなたに、あてはまるものを1つずつお答えください。（○は各項目1つずつ）

＜図表5-7＞自身の食生活



食生活で心がけていることについて、6項目に分けて聞いた。

「必ずしている」は、〈毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めている〉（63.4%）で6割台半ばと最も高く、これに〈食べ残しを減らす努力をしている〉（45.0%）、〈自らも料理に取り組んでいる〉（39.1%）、〈食事に関する作法に気をつけている〉（23.1%）が続く。「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた『していない』の割合は、〈自らも料理に取り組んでいる〉（25.3%）が2割台半ばで最も高く、これに〈食事に関する作法に気をつけている〉（22.5%）、〈家族や友人と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている〉（21.3%）が続く。（図表5-7）

【地域別】

地域による大きな違いはみられない。(図表5-8)

【性・年代別】

性・年代別でみると、〈栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気をつけている〉では、「必ずしている」は女性の方が男性より約9ポイント高く、男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなっており、特に女性60歳以上(35.6%)で3割台半ばとなっている。

〈家族や友人と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている〉では、「必ずしている」は女性の方が男性より約11ポイント高く、特に女性の20代から40代の年代で高く、30代(30.1%)、40代(31.1%)、20代(27.0%)と3割前後となっている。

〈毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めている〉では、「必ずしている」は高い年代ほど割合が高くなっており、特に男女とも60歳以上では約8割となっている。

〈食事に関する作法に気をつけている〉では、「必ずしている」は女性の方が男性より約13ポイント高くなっている。『していない』は男性20代(42.6%)で4割を超え、男性50代(37.7%)でも約4割となっている。

〈自らも料理に取り組んでいる〉では、「必ずしている」は女性の30代以上の年代で6割台半ばから約7割と高くなっている。男性では「必ずしている」は1割前後にとどまり、『していない』は4割から5割台半ばで、各年代ともほぼ同じ傾向となっている。

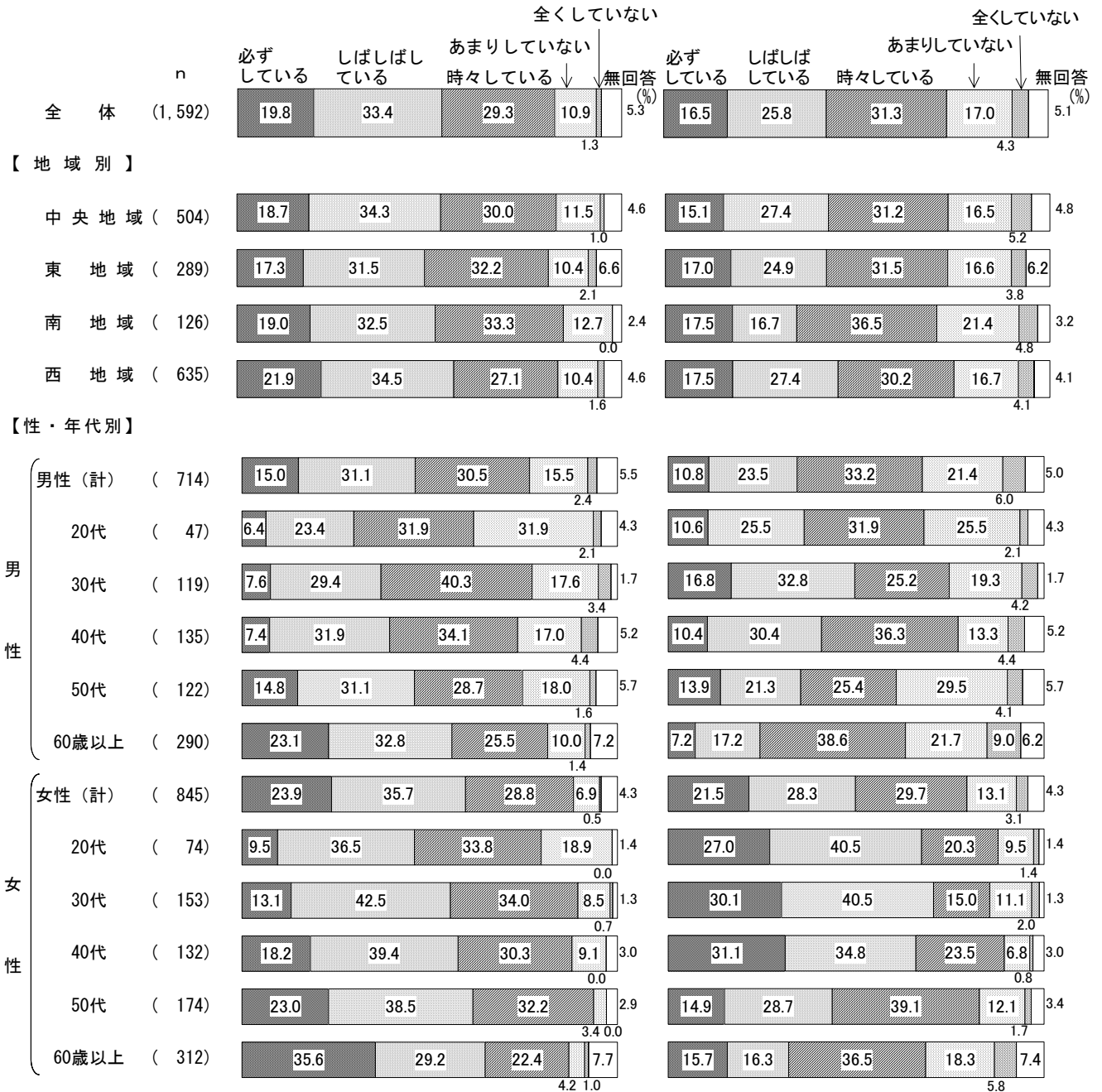
〈食べ残しを減らす努力をしている〉では、「必ずしている」は性別による差はみられないが、男性20代(53.2%)で5割台半ばと高く、女性では各年代で4割から5割となっている。

(図表5-8)

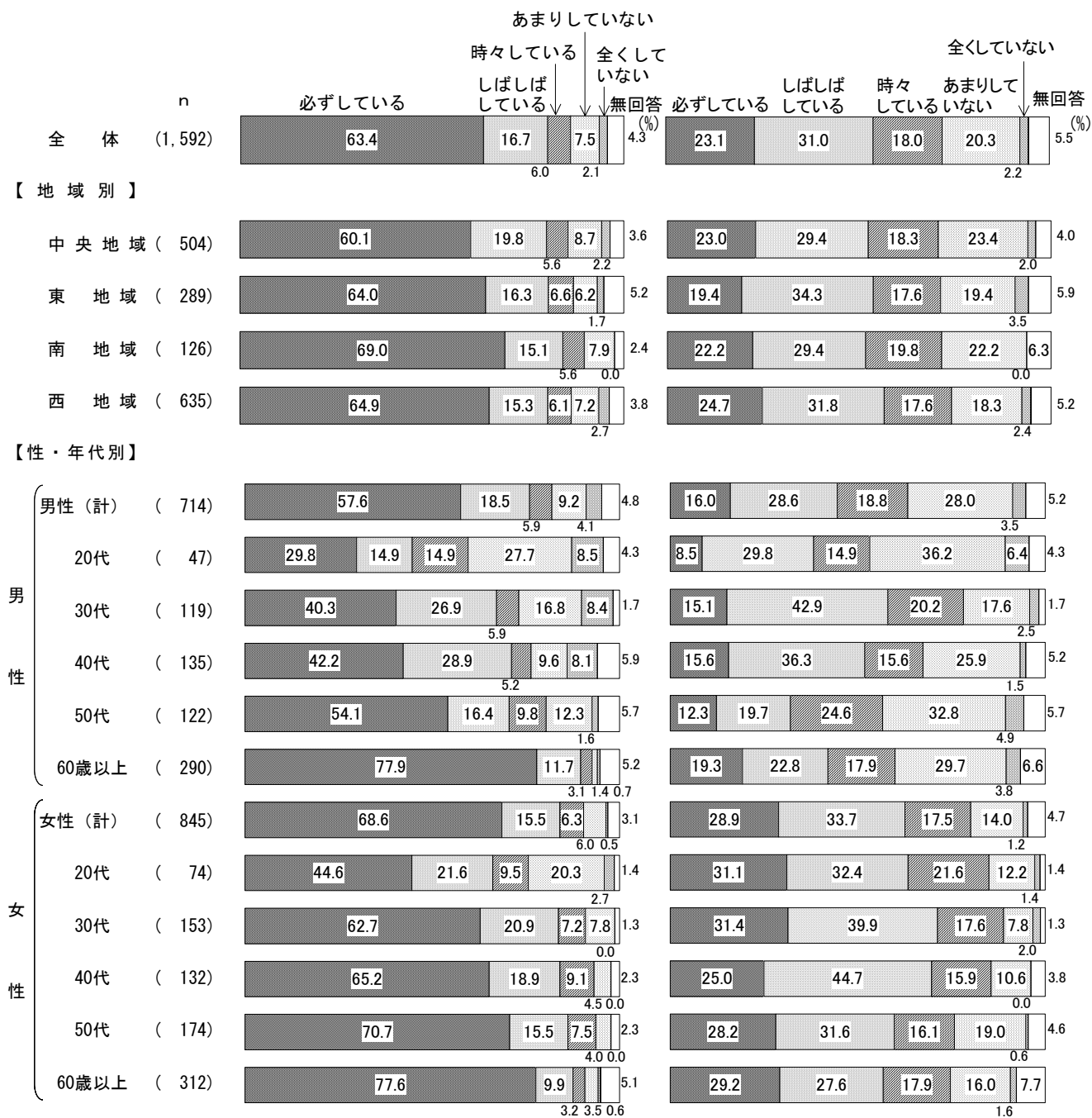
<図表5-8>自身の食生活/地域別、性・年代別

1 栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気をつけている

2 家族や友人と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている

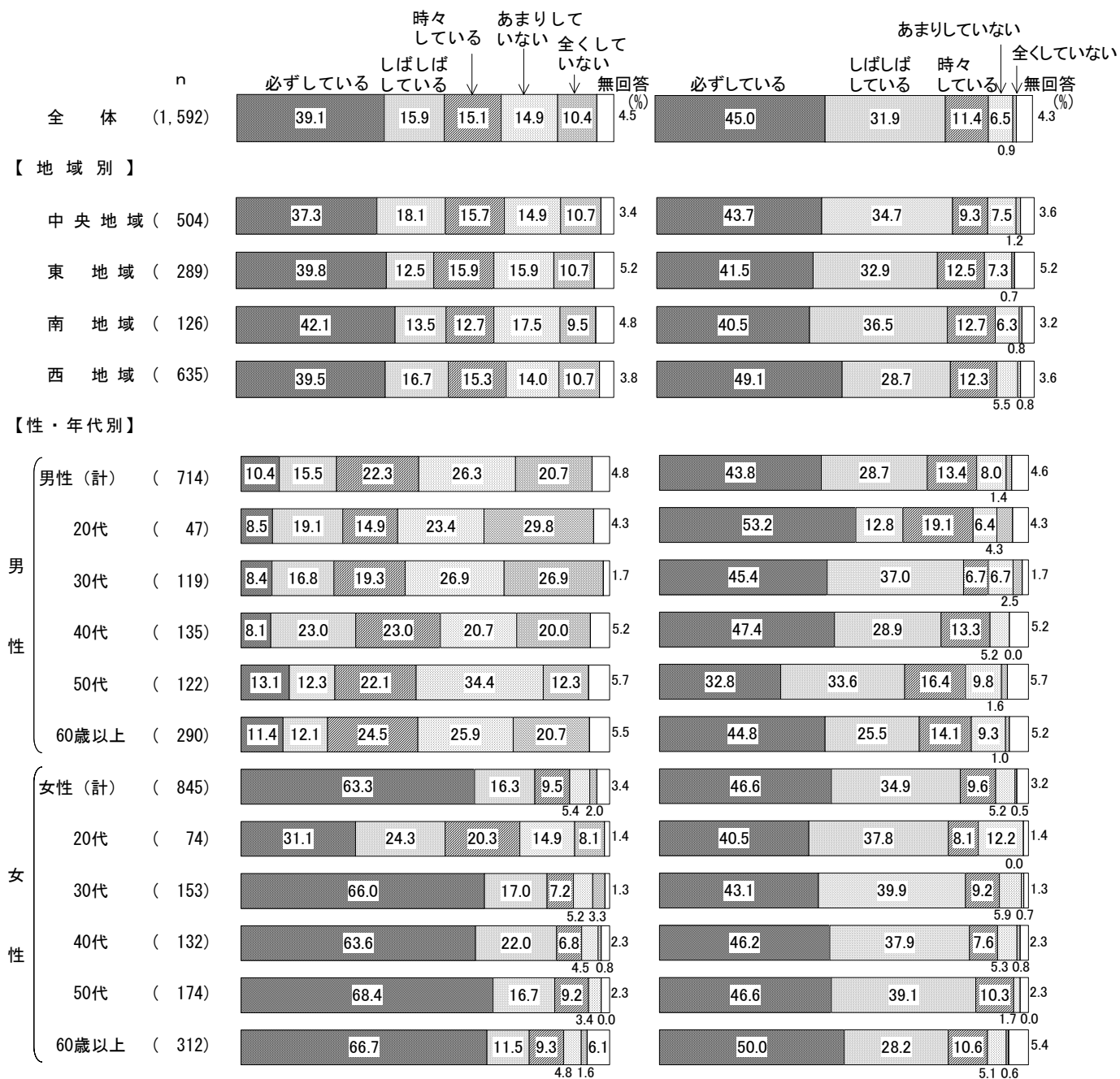


3 毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めている 4 食事に関する作法に気をつけている



5 自らも料理に取り組んでいる

6 食べ残しを減らす努力をしている

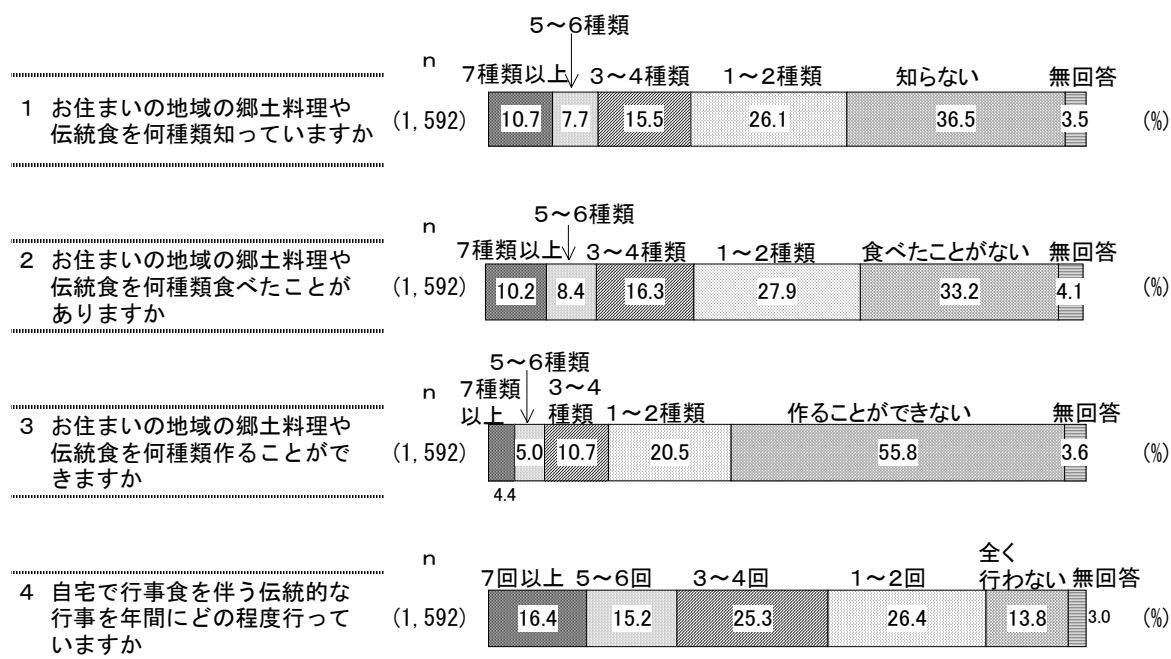


(4) 郷土料理、伝統食、行事食などの食文化

◇郷土料理や伝統食を知っている・食べた経験は6割を超えるが、作ることができるは4割

問 19 わが国では、四季折々の様々な食材に恵まれ、長い年月を経て地域と結びついた郷土料理、伝統食（※参照）、行事食（※参照）、配膳方法、所作などの食文化が形成されてきました。あなたが住まいの地域の郷土料理や伝統食について、行っていることを各項目ごとにお答えください。（○は各項目1つずつ）

<図表5-9>郷土料理、伝統食、行事食などの食文化



※伝統食、行事食の例

○正月（おせち・雑煮、七草粥等）、節分（まめ等）、桃の節句（ひな菓子・五目すし等）、春分の日（ぼた餅等）、端午の節句（ちまき、かしわ餅等）、七夕（素麺等）、土用（うなぎ、もち等）、お盆（団子等）、十五夜（月見団子等）、秋分の日（おはぎ等）、七五三（千歳飴等）、冬至（かぼちゃ料理等）、大晦日（そば等）

地域の郷土料理や伝統食について、どの程度行っているかを4項目に分けて聞いた。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類知っていますか〉については、「7種類以上」（10.7%）が1割、「5～6種類」（7.7%）が約1割、「3～4種類」（15.5%）が1割台半ば、「1～2種類」（26.1%）が2割台半ばで、「知らない」（36.5%）は3割台半ばとなっている。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類食べたことがありますか〉については、「7種類以上」（10.2%）が1割、「5～6種類」（8.4%）が約1割、「3～4種類」（16.3%）が1割台半ば、「1～2種類」（27.9%）が約3割、「食べたことがない」（33.2%）は3割台半ばとなっており、「認知度」と「食べた経験」についてはほぼ同じ傾向となっている。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類作ることができますか〉については、「7種類以上」（4.4%）と「5～6種類」（5.0%）の2つを合わせると約1割、「3～4種類」（10.7%）が1割、「1～2種類」（20.5%）が2割であり、「作ることができない」（55.8%）は5割台半ばとなっている。

〈ご自宅で行事食を伴う伝統的な行事を年間にどの程度行っていますか〉については、「7回以上」（16.4%）と「5～6回」（15.2%）はともに1割台半ば、「3～4回」（25.3%）と「1～2回」（26.4%）はともに2割台半ばで、「全く行わない」（13.8%）は1割台半ばとなっている。

(図表5-9)

【地域別】

地域別でみると、〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類知っていますか〉については、“西地域”では「知らない」（44.4%）が4割台半ばとなっているのに対し、“南地域”では「知らない」（22.2%）は2割を超えるにとどまっている。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類食べたことがありますか〉については、“西地域”では「食べたことがない」（41.9%）が4割を超えているのに対し、“南地域”では「食べたことがない」（16.7%）は1割台半ばとなっている。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類作ることができますか〉については、“西地域”では「作ることができない」（62.8%）が6割を超えているのに対し、“南地域”では「作ることができない」（42.1%）は4割を超えるにとどまっている。

〈ご自宅で行事食を伴う伝統的な行事を年間にどの程度行っていますか〉については、各地域ともほぼ同じ傾向となっている。（図表5-10）

郷土料理や伝統食について、“認知度”、“食べた経験”、“調理できる”の3項目ともに、“西地域”で低く、“南地域”で高い傾向になっている。

【性・年代別】

性・年代別でみると、〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類知っていますか〉については、「知らない」は男性20代（63.8%）で6割台半ば、男性30代（56.3%）で5割台半ばとなっている。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類食べたことがありますか〉については、「食べたことがない」は男性の20代（57.4%）と30代（51.3%）で5割以上となっている。

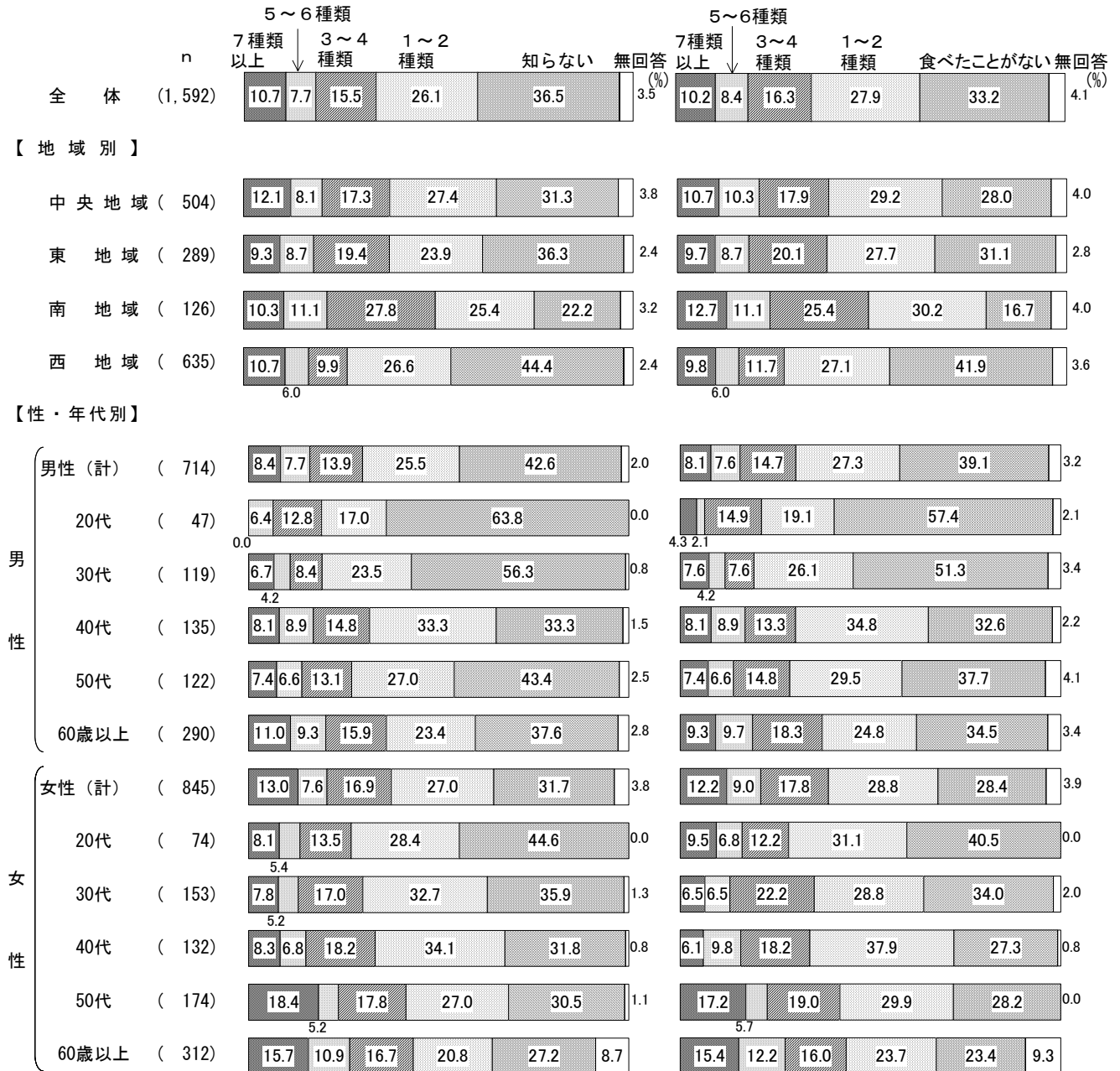
〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類作ることができますか〉については、「作ることができない」は男性の方が女性より約28ポイント高く、また男女とも年代が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。

〈ご自宅で行事食を伴う伝統的な行事を年間にどの程度行っていますか〉については、「全く行わない」は男性の方が女性より約13ポイント高く、また男性20代（31.9%）では3割を超え特に高くなっている。（図表5-10）

<図表5-10>郷土料理、伝統食、行事食などの食文化／地域別、性・年代別

1 お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類知っていますか

2 お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類食べたことがありますか



3 お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類作ることができますか

4 ご自宅で行事食を伴う伝統的な行事を年間にどの程度行っていますか

